

## アート解剖学

現代美術再入門

■ ■ ■

39

中井康之

う北アイルランドの首都に住んでいます。その地は、イギリスによる支配といたった歴史的経緯も絡み、

## 地域生活者として 紛争を茶飯事に

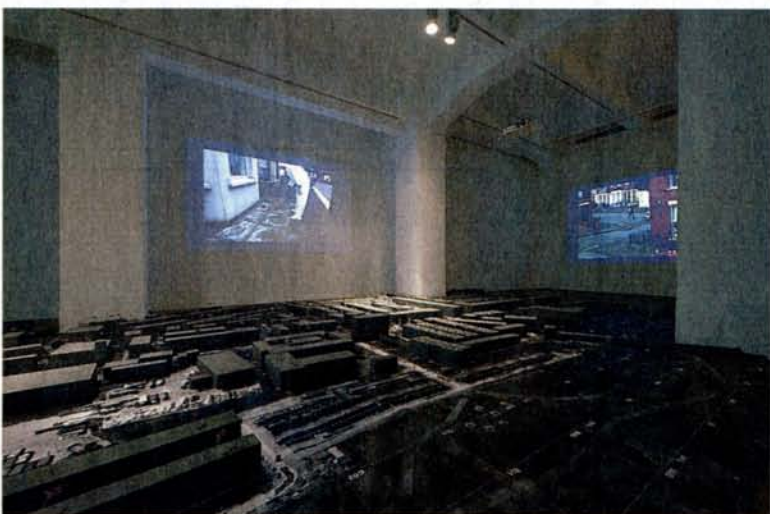
今回取り上げる増山士郎の作品は、大規模なインスタレーションです。展示空間の床面には都市空間のジオラマが立ち上げられ、壁面には現実の都市の中で撮影された、作者らしき人物が何らかの行為をしている動画と、装甲車が幹線道路をふさいでいる様子などを撮影したスライド画像という2種の映像が二つの壁面に映写され、さらにもう一方の壁面には「ここに犬の糞を捨ててからさ」という趣旨の英文が書かれた不可思議なポスターが張り出されています。

作者である増山はアイルランド人のパートナーと2年前からベルファストとい

が掛けられています。双眼鏡をのぞいた先に見えるのは、ビルディングの上に見える無数の2種類の国旗、ポコポコに穴があいたビルディング、そして道路の中央に集まる人々を表す小さな紙のフィギュア…。より詳しい意図は、説明を読まなければ分からないとは思いますが、いずこかの紛争地域を表していることを感じ取れると思います。

増山士郎「The Heart Rocker」

会場入り口付近に掲示された説明を読まなくても、それらの舞台装置からは当然、何らかの強いメッセージが込められていると誰もが感じるでしょう。作者らしき人が映し出された映像をしばらく見ていると、放射能防御用のような大きなコスチュームを装着して、家の敷地内に落とされた犬の糞を危険物を取り扱うかのように慎重にすくい上げ、仰々しくゴミ箱に捨てる様子が確認できます。何だか滑稽なパフォーマンスのようにも見えます。視線を展示空間に戻すと、ジオラマのディテールを見ることを促すかのよう



根源的な問題を卑近な茶飯事に置き換えて作品化した増山士郎「The Heart Rocker」(2011年)

カトリックとプロテスタントの複数の宗派という立場の違いによって住民が事実上分断して生活している地域であり、紛争が現在に至っても続いています。増山はこれまでも国内外のさまざまな地域にアーティスト・イン・レジデンンスのような形で在任し、現代美術という装置を通じて、それぞれの地域でクリティカルな状況を現出させてきました。今回はそのような一時的な滞在ではなく、日常的な行動にも危険が伴うような地域の生活者として、長い歴史を重ねてきた困難な紛争関係を、犬の糞の処置という卑近な茶飯事に置き換えて作品化しているわけです。増山は、東京で初めて公開したこの作品を、将来的にはベルファストで展示することも考えているようです。

日本の今の状況を笑い飛ばすような視点というのは、容易には生まれ得ないかもしれませんが、このような現実的かつ根源的な問題に対して積極的に関わりを持つとするタイプのコンセプチュアル・アートの存在を知ると、その糸口が在るようにも感じられます。

員) (国立国際美術館主任研究

「成層圏 vol. 2

増山士郎「展はギャラリーαM (東京都千代田区東神田)で25日まで開催。